

古の地名を開拓で残す

奈良県山陵町・津風呂開拓

奈良県奈良市山陵町の津風呂開拓は、平城宮跡歴史公園の北にあり、奈良大学や東大寺学園などの教育施設に隣接している。また、五社神古墳（^{ごきし}神功皇后陵）などの歴史的施設も近くにみられる。

元々、津風呂部落は奈良県中部の吉野町（当時は竜門村）にあった。津風呂の地名は万葉集に見る「津布呂」としてよく歌に詠まれた地だ。

ところが、戦後、奈良盆地の水不足解消のために、51年に吉野川支流の津風呂川にダムが建設されることになった。

う余曲折の末、現在の場所（元奈良競馬場跡）に移ることになった。

いにしえより続く、津風呂の村を絶えさせないよう、集団で移住しようとしたが、移転先決定に時間が掛かり、58～59年に移住した時には、当初57戸だったが20戸に減っていた。

新たな郷土を建設するに当たっては、村の象徴ともいべき氏神の春日神社を移設するために、最も高い丘を社地を選んで神移しの儀を行った。

移籍先は他の開拓地と異なり、田畑・用水・山林原野がある程度備わっていた。しかし、吉野の山村から都市近郊への移住は、日常生活での苦労も多かった。

畑ではサツマイモ・ダイコンなど、樹園ではモモが栽培されていた。また、何戸かが養鶏に重点を置くようになった。

70年に、集会所の敷地に記念碑が津風呂開拓農協により建てられた。

その後は、次第に若い人たちが他産業を志向するようになり、現在では、家庭菜園ほどの畑がみられるだけで、全体的には住宅地の様相を呈している。

吉野にあった旧津風呂は、61年に完成したダムにより、今は津風呂湖の底で静かに眠っている。

奈良県山陵町・津風呂開拓

- ①調査日 2024年5月25日
- ②所在 奈良市山陵町
- ③地区の沿革 吉野郡津風呂にダム建設が決まり 52戸が立ち退きを余儀なくされ、20戸が集団移転を求めたが、移転先が決まらなかった。昭和29年に廃止された奈良市北部にある奈良競馬場跡地が払い下げられ入植した。
- ④設置年月日 昭和45年4月29日
- ⑤設置者 津風呂開拓農業協同組合
- ⑥碑名 記念碑
- ⑦碑文（表面） 記念碑 奈良県知事 奥田 良三 題 津風呂町由緒

もともと津風呂の地名は遠く万葉集に見る「津布呂」●●として古くより歌に詠まれた地で南北朝の頃 津風呂筑後守総五俵上千開区光字入道●件によって治水産業が拓かれ五十二戸 田地十六町歩畑地十八町歩山林二百町歩の自給自足の平和な村であった 然るに 昭和二十一年十津川紀の川総合開発事業に依る津風呂ダム建設のためこの津風呂部落は水没し 裏面に銘記の二十戸がこの地に集団移転し第二の故郷津風呂町を創設し昭和三十五年四月二十八日 鎮守の春日の森から御神体を奉還し安栄山阿弥陀●薬師寺を安置し我々は昭和三十三年から移住を始め而後汗と涙で町遷の大事業に専念した 貢献された対策委員長坂口義雄氏建設委員長森中三郎氏開拓農協組合長後藤俊一氏等を始め二十戸の家族の一致協力加えるに土地の交渉工事協力に専念された山陵町の中田宇之吉氏の功績を忘れることは出来ない 吉野の故郷津風呂湖に湛えられた二五〇〇万m³の水は大和平野一万町歩の旱害を救うと共に工業用水等奈良県産業振興の為に幾久しく貢献されるのであろうことを希うと共に第二の故郷津風呂町が永久に繁栄することを祈念するものである

昭和四拾五年四月二十九日

建設者 津風呂開拓農業協同組合 文献謹書 津風呂町自治会長 片岡一雄

- ⑧碑文（裏面） 入植者名
- ⑨現在の状況 地域で管理されている。



